



平成 22 年 8 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社C&Gシステムズ
代表者名 代表取締役社長 山口 修司
(J A S D A Q コード 6 6 3 3)
問合せ先 執行役員 管理統括部 部長
大野 聡太郎
(T E L . 0 3 - 5 7 9 3 - 8 8 0 0)

特別利益の発生および 平成22年12月期第2四半期連結業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、平成22年12月期第2四半期累計期間（平成22年1月1日～平成22年6月30日）において特別利益が発生する見通しとなりましたので、その概要をお知らせいたします。また併せて、平成22年2月19日に公表した業績予想との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別利益の発生とその概要について

回収懸念のある債権について計上していた貸倒引当金の一部について、当該取引先からの債権回収が進んだことから、貸倒引当金戻入額として17百万円計上することとなりました。

なお、今回の特別利益発生に係る業績予想への影響に関し、第2四半期連結業績予想については次頁以降をご覧ください。また第2四半期個別業績予想および通期業績予想については、変更はございません。

2. 第2四半期連結業績予想との差異（平成22年1月1日～平成22年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想（A）	1,594	△3	4	3	0円35銭
今回予想（B）	1,452	△23	△4	6	0円54銭
増減額（B-A）	△142	△19	△8	2	—
増減率	△8.9%	—	—	55.4%	—
（ご参考） 前期第2四半期実績 〔平成21年12月期〕 第2四半期	1,349	△302	△289	△263	△22円86銭

3. 差異理由

世界経済は緩やかに回復基調にあるものの、当社グループの主要顧客である金型関連業は回復が遅れており、設備投資に対しても依然として慎重な姿勢が続いております。その結果売上高は前回予想を1億42百万下回りました。ただし営業利益については、売上減に伴う売上原価の減少および販管費の削減効果等から、前回予想と比較し19百万円の減少に止まりました。また経常利益についても、省庁からの研究開発関連助成金や有価証券売却益の計上等により、前回予想と比較し8百万円の減少に止まりました。四半期純利益については、上述の特別利益計上等から、前回予想を2百万円上回りました。

以 上